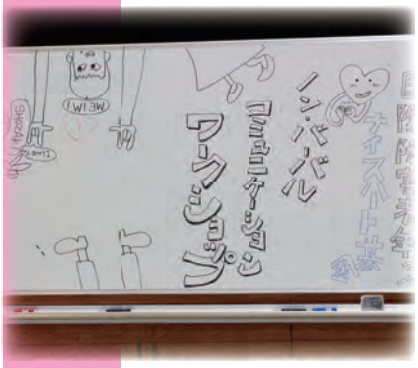


平成 30 年度
ノンバーバルコミュニケーションワークショップ in ほっかいどう
実施報告書

2019 年 4 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

目　次

はじめに …… 1
実施概要 …… 2
スケジュール …… 3
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い
庄﨑 隆志 …… 4
ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップへの思い
メイミ …… 11
プログラム概要　知的障がい者生活介護事業所ふれあいらんど …… 14
参加者の感想 …… 15
プログラム概要　支援センターゆみな …… 17
参加者の感想 …… 18
プログラム概要　生活介護介護事業所愛歩路 / 工房はまなす …… 19
参加者の感想 …… 20
プログラム概要　地域自立生活応援センター共生舎 …… 21
参加者の感想 …… 22
編集後記 …… 23

はじめに

当基金では、平成 23 年の東日本大震災後の福島の障害のある子どもたちへの取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を福島から関東へお招きをして、平成 24 年度から続けてまいりました。

平成 27 年度は、福島県内において活動できる内容として、養護学校中心にノンバーバル（非言語）コミュニケーションワークショップと題した、子どもたち同士がよりよくコミュニケーションを図るきっかけとして、楽しみながら体験していただくために開催しました。また翌年も、福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行い、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、２日間で４施設を訪問させていただきました。

昨年度は、平成２８年４月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体を３施設訪問させていただき、併せて、同時期に開催された第 66 回全九州ろうあ者大会と協働し、研修会とアトラクションの中で、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについての学びの場と致しました。

今年度はまず９月に宮城県の石巻市・女川町中心に４施設訪問させていただき、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたしました。

今回は第二弾として、９月の北海道胆振東部地震で被災された札幌市の障害者施設を中心に、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方についての学ぶ場として、早期の復興を願い実施致しました。

２０１９年４月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

実　施　概　要

ノンバーバルコミュニケーションワークショップ　in ほっかいどう

1. 目　的　　ナイスハート基金は、平成２３年度より東日本大震災の被災地を対象として活動を実施して参りました。
平成２８年度は福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や宮城県内の障害者施設でワークショップを行うことにより、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、４施設を訪問し開催することができました。
昨年度は、平成２８年４月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体や施設を訪問し、今年度は９月に宮城県の石巻市・女川町を中心に４施設訪問させていただきました。
今回は第二弾として、このノンバーバルコミュニケーションワークショップを９月の北海道胆振東部地震で被災された札幌市の障害者施設を中心に、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方についての学ぶ場として、早期の復興を願い実施したいと考えました。

2. 日　時　　２０１９年３月１８日（月）～１９日（火）

3. 場　所　　知的障がい者生活介護事業所ふれあいらんど（苫小牧市）
千歳市総合福祉センター（千歳市）
生活介護介護事業所愛歩路（札幌市）
地域自立生活応援センター共生舎（札幌市）

4. 主　催　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

5. 後　援　　北海道

6. ファシリテーター　庄﨑隆志さん　office 風の器主宰・俳優・演出家
メイミさん　漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長

～スケジュール～

３月１８日

9:00　ふれあいらんど到着
9:55　ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ / 拍手パフォーマンス
10:05 早着替え
10:15 ミラーリング
10:20 エアーボール
10:30 エアーなわとび / エアーカーリング
10:45 汽車ごっこ
10:50 変身ショー
10:55 ハイタッチで終了

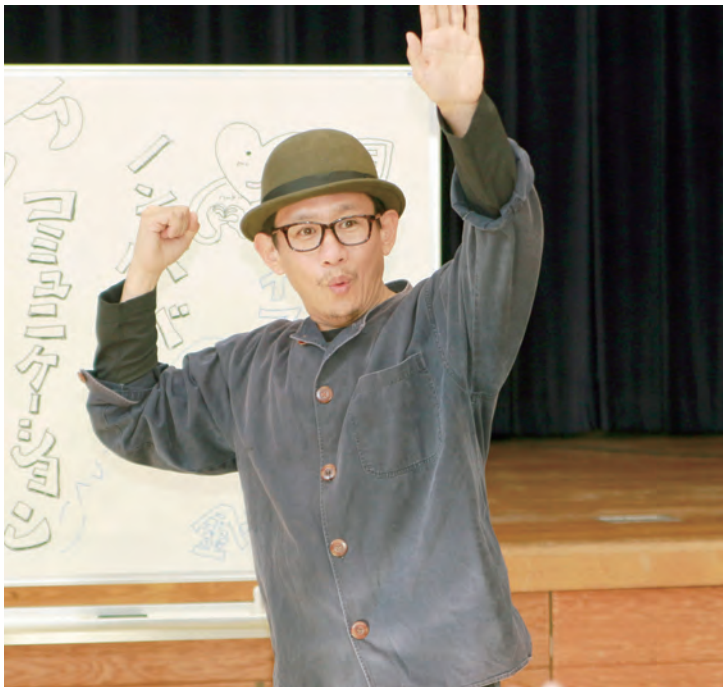
13:00 千歳市総合福祉センター到着（支援センターゆみな 様）
13:25 ワークショップ開始→ご挨拶
13:40 かべどん / 庄﨑パフォーマンス
13:45 早着替え
13:50 ミラーリング
13:55 エアーボール
14:00 ミラーリング２（スカーフみたいなものを使って）
14:05 エアードアパフォーマンス
14:15 男と女の出会い・港の口マンス・手のしばい（庄﨑）/ サインは V（メイミ）
14:20 ハイタッチで終了

３月１９日

9 :45 生活介護介護事業所愛歩路到着
10:25 ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ
10:35 早着替え / メイミパフォーマンス
10:40 ミラーリング（スカーフみたいなものも使って）
10:55 エアーボール
11:05 汽車ごっこ / ダンス
11:10 変身ショー
11:20 ハイタッチで終了

13:00 地域自立生活応援センター共生舎到着
13:30 ワークショップ開始→ご挨拶
　　ハイタッチ / 拍手
13:40 かべどん
13:50 早着替え / メイミパフォーマンス V 字
14:00 ミラーリング
14:05 エアーボール / エアー風船
14:15 エアーなわとび
14:20 手のしばい・男と女の出会い・チェロマイム うみや
14:30　汽車ポッポ→終了

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い



庄崎 隆志
Takashi Shozaki

「ノンバーバルコミュニケーション」
初めて耳にする方もたくさんいらっしゃるのではないでしょうか。
ワークショップでは身体を使ってシンプルな動きから始め、一歩ずつ、深くしっかりと言葉以外の情報をもとにコミュニケーションを図っていけることを目指していきます。

障がい者は心身の能力の個人差が大きいです。しっかりと一人ずつの特徴や状態をチェックし、プログラムを構築していきます。常に動きや表情、どんな反応をしているかを観察し、参加者の発信しているサインを受け止めながら進めます。

今回も４つの施設で多くの方に参加していただきました。参加いただいたみなさま、立場や思いはさまざまですが、ワークショップを通して、“つながった”瞬間を体験していただきノンバーバルで表現することに大きな意味を見出していただけたことと思います。

３月１８日（月）

一ヶ所目は苫小牧のふれあいらんど

ハイタッチから始まり、ミラーリング、エアーボールへ。

エアーなわとびが始まるとノリノリで自由にぴょんぴょん跳ねる参加者に、思いもよらぬエアーカーリングを生み出した参加者もいました。その後、汽車ごっこと変身ショーは表現のエネルギーが溢れていました。最後は通常とは様子が違い、拍手が続き、まさかのアンコールに目頭が熱くなりました。

二ヶ所目は千歳の支援センターゆみな

自己紹介を黒板で行うことからスタートし、カベドン、エアーボール、ミラーリング、そしてドアマイムで表現し、伝え、感じながら、ノンバーバルコミュニケーションをとることを様々なシチュエーションで行いました。

３月１９日（火）

三ヶ所目

札幌の愛歩路と工房はまなす

特に重度心身障害者が多いので状態に応じて負担のないプログラムにしました。

ミラーリングというプログラムでは、スカーフをミラー代わりにからだで表現し、シンプルなストーリーを創っていきます。１人がスカーフを持って揺らすと相手が揺らすスカーフを見て真似る、身体とスカーフが一体となりながら、別の世界も見えてきました。参加者の一人一人が、こんな多様な表現者になることに驚き、感動の連続でした。

４ヵ所目

札幌の地域自立生活応援センター共生舎

パワー全開のワークショップでした。

特にエアーボールとエアーなわとびでは、参加者の動きはどんどん大きくなり、表情も生き生きと笑顔に変わってきました。その変化を目の当たりにて、私たちが学ばせていただけていることに気づきました。「笑顔」はやはり人を元気にするものだと再発見しました。

それぞれの４つの施設でのワークショップを通して、参加者は、身体を動かすこと、表現す

ることを思う存分楽しんでいただけたと思います。障がいのある人のほうが自由なのではと思えました。ワークショップが進むにつれて、表情や動きが生き生きと変化していく様を見て何よりも自分自身が喜びでいっぱいになりました。

そこには予定調和は存在しません。ジャズのセッションのようなものです。もちろん、なかにはワークショップに参加したくないという方もいました。決して、強制はしませんでした。しかしながら、遠巻きで見ているだけだった参加者が、表情が緩み笑顔となり自分なりの行動をし始めました。実に興味深い場面でした。

参加して楽しかった、一体感が生まれた、盛り上がったという感想に、ファシリテーター、ノンバーバルコミュニケーターとしてこんな嬉しいことはありません。この経験をこの先へとつなげていきたいと思います。

苫小牧、千歳、札幌の方々には大変お世話になり、嬉しい出会いと新しい発見もたくさんありました。私とメイミさんの二人で「場」をしつらえ、人と人を紡いだだけで、みなさんが持ってるご自身の力を発揮し大きな変化を見せてくださいました。みなさんの人生の物語を観させ

てもらい感動をいただけた素晴らしい２日間でした。

ノンバーバルコミュニケーションワークショップの道が拓けたように思います。まだまだ試行錯誤は続きますが、ノンバーバルコミュニケーターとして求められる限り、使命感を持って取り組みを続けていこうと思います。

４つのワークショップの関係の皆さまにはご尽力いただき、この場でお借りして感謝の意を表します。

本当にありがとうございました。

庄﨑隆志

office 風の器主宰・俳優・演出家。

19 歳で裏方のアルバイトのつもりで入ったプロフェッショナル劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」で思いがけず役を貰い、俳優に。演出・脚本も手がける。国内で 2000 回以上、また海外 13 カ国で公演の経験を持つ。2005 年の退団後は公演プロデュース、また実践女子短大をはじめ様々な教育の場や国立特別支援教育総合研究所等でワークショップの講師としても活躍。映画『ゆずり葉』（全日本ろうあ連盟製作）主演。著書に「障害者と福祉文化」（第 8 巻・明石書店）他。2010 年「第 59 回横浜文化賞文化・芸術奨励賞」受賞。

ノンバーバル・コミュニケーション ワークショップへの思い

メイミ

Meimi

今回もファシリテーターを務めることができ大変嬉しく思い感謝申し上げます。

ノンバーバルコミュニケーションワークショップに関わるようになり、今年で 5 年です。それ以来、北海道での開催は 2 度目となります。前回に引き続きご参加頂いた方々もいらっしゃいます。久方ぶりの再会です。

1 時間のワークショップはどれ一つとして同じものはなく、毎回、新鮮さを味わいます。コミュニケーションの奥深さと可能性を感じます。

皆さまとのノンバーバルなコミュニケーションでの一瞬一瞬を、私の想いと共に振り返っていきたいと思います。

庄﨑さんとお会いするのは、昨年の 9 月のワークショップ以来の約半年ぶりでした。

ワークショップ前日、北海道で合流後に軽い打ち合わせ。恐らく 30 秒程度でしょう。

不思議なもので、これでもう大丈夫だろうという安心感があります。既にノンバーバルコミュニケーションがスタートしているような感じです。

最初に訪れた「ふれあいらんど」の皆さんは、日曜のお休み明けでどことなくまったりした空気が流れていました。

そこからハイタッチでコミュニケーションを図りながら、ミラーリング（まねっこ遊び）やエアーキャッチボールで少しずつ体を動かし、後半はエアー縄跳びに汽車ごっこと、始まる前のまったり感は嘘の様に盛り上がり、夢中で遊ぶように皆さんと過ごした時間はあっという間。汗もたっぷりでした。

このワークショップは頭ではなく、感覚と心を存分に使います。

夢中になり後で振り返ってみると、自分が何をしたか記憶が曖昧なことがあります。

ただただ、皆さんの笑顔と様々な反応が心に残っているだけです。

この日、一つ自分の中での反省、今後の課題にしたいと思うことがありましたのでそれを綴っておきます。

ノンバーバルコミュニケーションに戸惑いなかなか体が動かず、見ているだけの方が居たのですが、その間、言葉で一生懸命に自己主張されていました。

その情報を上手くキャッチしてワークショップのプログラムに展開することで、もう少し積極的に参加しやすい状況を作れたの

では？と思います。

様々な反応がある中で、今後も更に柔軟性のあるコミュニケーションの形を探っていきたいと思います。

次に訪れた支援センターゆみなさんの皆さんとのワークショップでは、少人数で落ち着いた雰囲気でした。

開始直前に庄﨑さんとお話し、落ち着いた雰囲気に合ったプログラムにしようということ、後は様子を見ながら何をするか任せると庄﨑さんが仰いました。

細かいことは決めませんが、全体の方向性をどのようにするかということはある程度、ファシリテーター同士の意思疎通を図ることも大切です。

ただ、ワークショップが始まってみると思いがけない方向へ展開したりすることもしばしば。

この時は、比較的落ち着いた大人しい雰囲気の皆さんという印象だったのが、始まってプログラムが進むにつれ思ったよりも積極的にこちらの想像を超える表現力の豊かさで面白い展開となりました。

いつも行なっているミラーリングのプログラムに変化を加えようと、今回はスカーフを用意しました。

庄﨑さんや参加者の皆さんとの掛け合いの中で、そのスカーフの使い方も多様に変化し、イメージしていたものよりも更に面白い世界が広

がりました。

スカーフをゆらゆらと動かし、その動きを真似て体で表現しました。

ご年配の女性にやっていただくよう促すと、手が痛いから無理だと仰いました。痛くないようこれぐらいの動きでも大丈夫だとスカーフをゆらゆらしてみせると「ならやってみよう」とスカーフを受け取り、2枚のスカーフをゆらゆらと動かしました。

それに合わせてファシリテーター2人が動き出し、そこからノンバーバルコミュニケーションが始まりました。

身体的に様々な状況がある中で、どなたでも無理なくできて皆で楽しめるプログラムとなりました。

翌日は、午前中に愛歩路／工房はまなすさん、午後は地域自立生活応援センター共生舎の皆さんとのワークショップでした。

午前中は、以前ご参加頂いたことがある方も何名かいらっしゃいましたが、前回とはプログラムの内容も変化し、また違った一面を見ることができました。

前回と大きく違った部分は、ファシリテーター同士のコンビネーションで参加者を巻き込んで展開していく内容が多く含まれていることです。

全員で一緒に行なうプログラムよりも、前に出て来て頂きファシリテーターとミラーリング

やエアーボールをするような一人一人の個性が輝く場面が多い１時間でした。
　無言のコミュニケーションキャッチボールが右へ左へななめへと飛び交い、自由さの中にも不思議な一体感が生まれました。

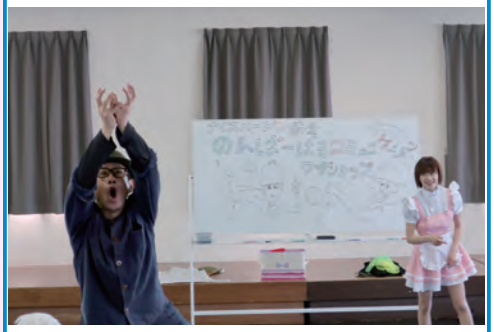
　最後に訪れた地域自立生活応援センター共生舎の皆さんとのワークショップでは、ありとあらゆる形のプログラムがギュッと濃縮された１時間でした。
　全体で行なうもの、見て頂くもの、前に出て個々に参加するもの、体を存分に動かすもの。反応も様々でした。笑いが止まらなくなってしまう方や戸惑いながらも誘われると一緒になって動き出す方、一歩後ろから全体を楽しむ方。
　終了後、施設の方が普段は見ない新しい一面を発見できたと仰いました。

　ノンバーバルコミュニケーションは新しい自分に出会え、そして、相手の意外な一面や新たな可能性を発見できます。
　その素晴らしさをより実感した二日間でした。
　改めて、このワークショップに関わる全ての皆さまに感謝の気持ちをお伝えし、今回のまとめと致します。有難う御座いました。

メイミ
漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。
舞台や各種イベント、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。これからの長寿社会に向け、「笑って長生き」という考えを広める為の活動を展開している。アイディアヒューマンサポートアカデミー / カウンセリングスキルベーシック / トップメンタルトレーニング修了。日本アロマセラピー統合医学協会認定心理アロマアドバイザー。クエスト総合研究所認定 / クエストアートセラピーメンタルケア・アドバイザー

プログラム概要

知的障がい者生活介護事業所ふれあいらんど　３月１８日（月）

時間	プログラム	写真
９：５５～	ワークショップ開始 ご挨拶（主任支援員　橋本 様） ハイタッチ 拍手パフォーマンス	
１０：０５～ １０：１５～	早着替え ミラーリング	
１０：２０～	エアーボール	
１０：４５～	汽車ごっこ	
１０：５０～ １１：００	変身ショー ハイタッチでワークショップ終了 【参加者合計３４名】	

参加者の感想

知的障がい者生活介護事業所ふれあいらんど　３月１８日（月）

メイさんへ
カワイイよかったです。
やさしいよかったです。
ノノ四ノ二ケーリヨン
おもしろかったです。おてつだし
してくれてありがとうございました

メイちゃん　パフォーマンスしたいです

参加者の感想

知的障がい者生活介護事業所ふれあいらんど　３月１８日（月）

ハンバルコンテテション
たのしくよかった。
十月六日(日)合同かいしがた
ときわ田しょうさきとメテこ
しゅうさいもよかったり
どうぞです。

えほんとマフラー
本仏本三登品

プログラム概要

支援センターゆみな　３月１８日（月）

時間	プログラム	写真
１３：２５～	ワークショップ開始 ご挨拶（主任　畑中 様） かべどん 庄崎パフォーマンス	
１３：４５～ １３：５０～	早着替え ミラーリング エアーボール	
１４：００～	ミラーリング２	
１４：０５～	エアードアパフォーマンス	
１４：１５～ １１：５０～	手のしばい・男と女の出会い 港の口マンス（庄崎） サインはＶ（メイミ） ハイタッチでワークショップ終了 【参加者合計１３名】	

参加者の感想

支援センターゆみな　３月１８日（月）

「ノンバーバルコミュニケーションに参加して」

このたびは「ノンバーバルコミュニケーションワークショップ」に参加させていただきありがとうございました。

はじめて聞く「ノンバーバルコミュニケーション」という言葉はなかなかイメージがつきにくく、「ふれあいのスポーツ大会」のように動くのかな？汗かくかもしれないから動きやすい恰好で行った方がいいかな？などと皆で話しながらこの日を楽しみにしていました。

まず、ファシリテーターの庄﨑さんとメイミさんがホワイトボードに自己紹介をしてくれました。ホワイトボードにはかわいらしい字体でワークショップの名前やイラストが描かれてあって「何がはじまるんだろう♪」とワクワクしました。そのあと一人一人の目を見てあいさつと握手をしてくれたのですが、利用者さんそれぞれの様子を受け止め丁寧に接してくれているのが印象的でした。男性利用者さんたちはかわいらしいメイミさんとの握手に照れていましたが、普段することのない表情を見ることができてスタッフも嬉しい気持ちになりました。

はじめはスタッフも利用者さんも緊張していたのですが、庄﨑さんの次々変わる表情やメイミさんの笑顔に次第にひきこまれ、どんどんみんなも笑顔になっていきました。なかには普段は目立ったことが苦手な方も、楽しい雰囲気に誘われて自ら手を挙げてみんなの前でパフォーマンスするほどに！！

利用者さんの中には聴覚障害の方や人前でお話ができない方もいたのですが、それゆえにお互いの思いを感じ取ろうと歩み寄っているように感じました。参加された利用者さんからは「楽しかった！」「また参加したい！」の声が多数あり、日ごろの作業のストレス発散にもつながったと思います（笑）。

最後に今回ワークショップを企画してくださった（公財）国際障害者年記念ナイスハート基金関係者の皆様、ファシリテーターの庄﨑さん、メイミさんに感謝いたします。たくさん笑って、ともに楽しい時間を過ごしてくださって本当にありがとうございました。

プログラム概要

生活介護介護事業所愛歩路 / 工房はまなす　３月１９日（火）

時間	プログラム	写真
１０：２５～	ワークショップ開始 ご挨拶（理事長　潤口 様） ハイタッチ	
１０：３５～	早着替え メイミパフォーマンス	
１０：４０～	ミラーリング	
１０：５５～ １１：０５	エアーボール 汽車ごっこ ダンス	
１１：１０～ １１：１５～	変身ショー ハイタッチでワークショップ終了 【参加者合計４３名】	

参加者の感想

生活介護介護事業所愛歩路 / 工房はまなす　3月１９日（火）

「ノンバーバルコミュニケーションに参加して」

就労移行事業所　工房はまなす　中西 真琴

生活介護事業所　愛歩路にて開催されたノンバーバルコミュニケーションワークショップに、工房はまなすも利用者様と一緒に参加させて頂きました。

「非言語」でコミュニケーションが取れるものなのかと思いながら参加してみると、たちまち利用者様も職員も、ノンバーバルの世界に引き込まれて行きました。

まずは庄崎さんがホワイトボードに理事長の似顔絵を描き、皆さまを引き付けて、パフォーマンスが始まるといつの間にか見入ってしまった様に感じました。

エアーのボール投げやバレーボール、ハンカチを使ったパフォーマンス、メイミさんの早着替え等非言語なのにまるで会話をしているかの様に楽しく、笑顔で参加されている利用者様の姿を見てとても嬉しく思いました。

今回このワークショップに参加させて頂き、言葉が無くても心で会話が出来ると言う事を学ばせて頂きました。笑顔の絶えない素晴らしい時間を体験させて頂き本当に有難うございました

プログラム概要

地域自立生活応援センター共生舎　３月１９日（火）

時間	プログラム	写真
１３：３０～	ワークショップ開始 ご挨拶（渋谷 様） ハイタッチ 拍手	
１３：４０～	かべどん	
１３：５０～ １４：００～	早着替え メイミパフォーマンスＶ字 ミラーリング	
１４：０５～	エアーボール エアー風船 エアーなわとび	
１４：２０～ １４：３０～	手のしばい・男と女の出会い チェロマイム うみ（庄﨑） 汽車ポッポで終了 【参加者合計２３名】	

参加者の感想

地域自立生活応援センター共生舎　3月19日（火）

障がいの種別を超えて，楽しく交わる今回の取り組みに参加して，とてもユニークな方法によるコミュニケーションの形を体験できました。

今後，このようなコミュニケーションによって，多くの人々が楽しみを共有できる機会が広がっていけるといいな！と思いました。

共生舎　長谷川ひろし

（コミュニケーション）
コミケイションのたいけんをして　手と手のうごきがよかったとほめられました。なかよくできて　たのしかったです。
またきてくださいこいいました。

原田博子

ありがとう
またばいまんすみたいです。
（パフォーマンス）
あべとしはるより

編集後記

初めて１年間で２回のノンバーバルコミュニケーションワークショップを開催することとなり、２人の演者（庄﨑隆志さんとメイミさん）も半年という以前よりもブランクが最も短い期間での共演となりました。そのことが影響したと思われるが、初日のスタートから息のあったコンビネーションを披露され、それは参加者から鳴りやまない「アンコール！アンコール！」の声が証明されていたのではないかと感じました。

このワークショップは、参加者と演者の１対１のコミュニケーションが醍醐味であることに変わりはないが、今回はより一層、参加者全体対演者というコミュニケーションが際立っていました。それは例えばエアボールのように、目に見えないボールを、あたかも参加者全体が見えているかのようにボールをつないでいく・・・見えないボールを介在して、コミュニケーションの和が全体に広がっていく。そういう広がりを何度も体感することができたのも、目の前の参加者の表情や仕草ときちんと向き合って、コミカルに対応される２人の演者の力量であり、参加者の何らかの意思表示があってこそなのではないでしょうか。

言葉のないノンバーバル（非言語）であるがゆえに想像力がいかんなく発揮され、それがコミュニケーションへとつなぐ一助となることを願って、このワークショップを開催するにあたり調整してくだった方々、ご参加頂いた方々、全ての関係者に御礼申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 髙倉 和樹）

平成 30 年度ノンバーバルコミュニケーション・ワークショップ
実施報告書

2019 年 4 月発行
発行元　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金